

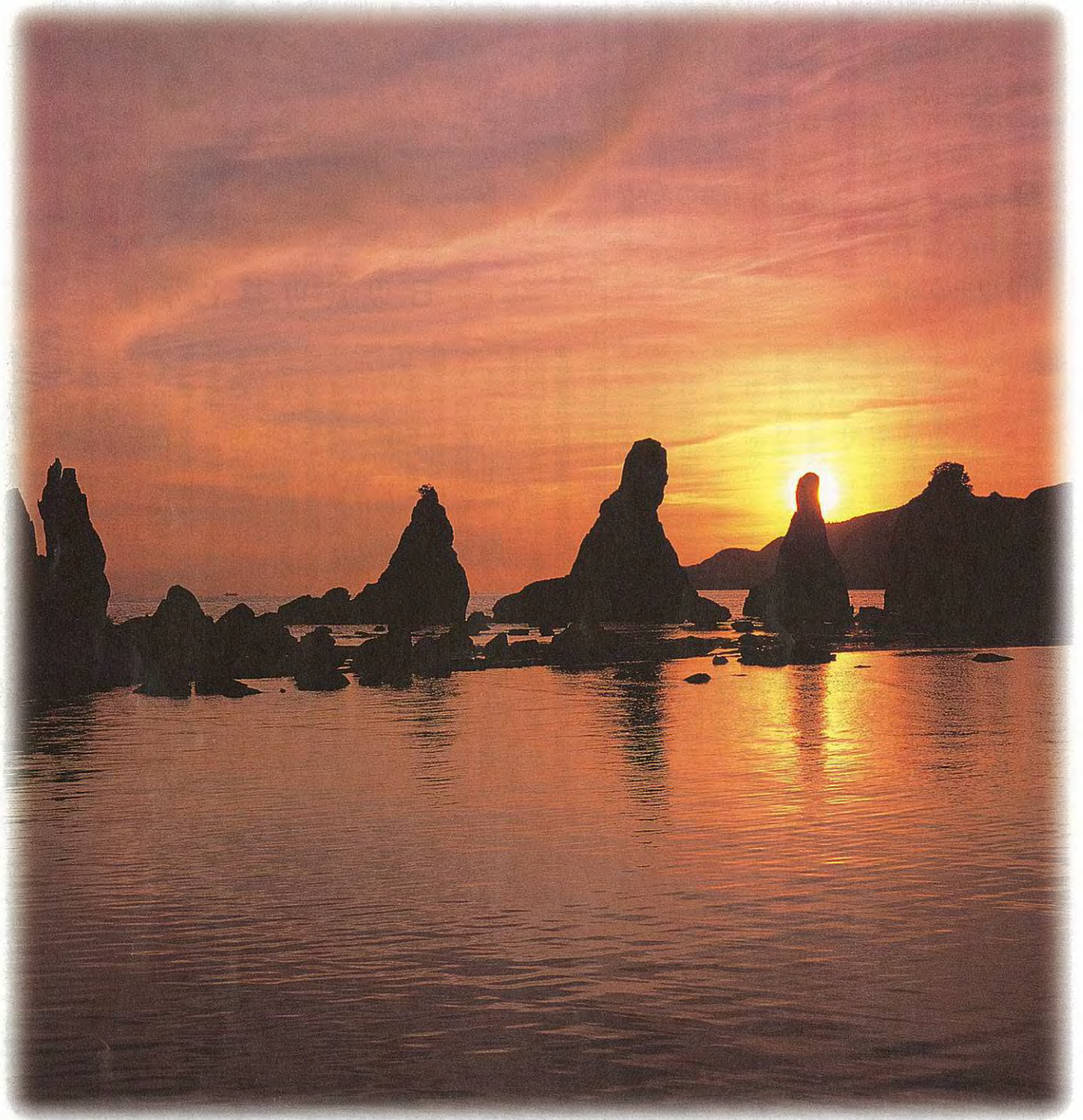
鮎

TAKUSUI

1

2005年 January

No.579

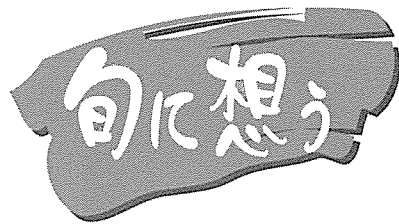


新年のご挨拶

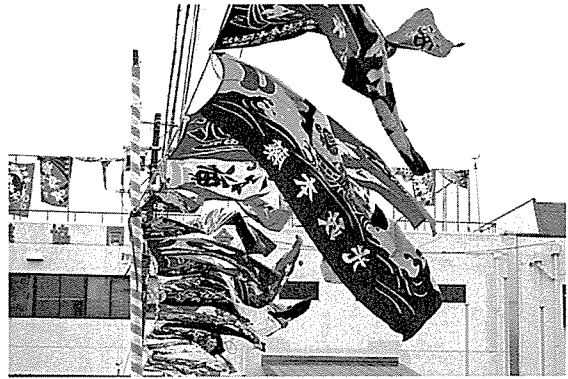
ウチの漁協! JF林崎

CONTENTS

- 2 旬に想う
日の丸の旗と万歳
ほっとするフォトセラピー
神神しい熊野灘の日の出
- 3 新年のご挨拶
- 7 News
全国漁業協同組合学校施設整備募金運動にご協力下さい
免許制度が変わったのをご存じでしたか?
- 8 REPORT
平成16年度 漁協簿記実務研修会
兵庫JCC通信
- 9 ホントに知ってる?こっそり覚えよう! 兵庫のさかなアカシタビラメ
行事予定
- 10 ウチの漁協



写真と文 遊方子



日の丸の旗と万歳

◆大漁旗が威勢よく風に靡く。鮮やかな色合いが翻転とす
るのを見ると、意気軒昂して覇気を呼ぶように思う。華やか
な旗には、景気つけの三面もあり、明石(魚の棚/ウオシタナ)
では、天井一杯に大漁旗を吊り上げ、歳末商戦に活気を呼ん
でいた。或る哲学者は「人間はシンボルを使う動物である」
と言ったが、旗こそシンボルというに相応しい。いつ頃から旗
を用いたのだろうか。江戸時代、国替えが広く行われてい
た頃、大名の行列が行き会ったと、掲げている紋所や旗印で、
道を譲るか相手に譲らせるかを判断したという。行列に掲
げた旗印に、権威を示す重要な意味があり、家紋を集めた
《武鑑》は道中の必需品であった。以下、旗の発展には戦い
における機動性が大いに関係してくるが、この稿では省く。

◆日の丸は、太陽を描いたものだから《日章旗》とも呼ばれる
が、小学唱歌で「白地に赤く、日の丸染めて」と覚えた。デ
ザインは歌詞通り、実に単純明快である。世界に数ある国旗
の中でもシンプルさでは抜きん出ているものの、由来については
「何時、誰が思いついたのか判らず、神話伝説につながる」とい
う。近代国家の象徴としては、起源や意義のはっきりしないの
は珍しいそうだが、かつて祝日には各戸の玄関で翻っていたもの
だ。今、国旗掲揚の必要性について、十代の若者が必要だとい
い、五十歳の人は日の丸には戦争と重なるものがあるが、国の
象徴として有った方が良くいと答える。年代層でバラつくものの、
その扱いを強要されることに嫌悪感を示す人が多いようだ。

◆世界各国の国旗を見ると、大きさやタテ・ヨコの比率が美

ヒロ旗谷のPHOTO ESSAY ほっとするフォトセラピー

今月の表紙: ^{こうごう}神神しい熊野灘の日の出
—和歌山県・串本橋杭岩にて—

日の出前。

熊野灘の奇岩があかね色に染まる。

本州最南端、暖かい黒潮が潮岬を洗う。

弘法大師が一夜にして作ったと伝えられる橋杭岩から

朝日が昇ってきた。

オーロラのように飛翔する雲間から茫洋と太陽が顔を出す。

奇岩はシルエットとなって一列の橋杭を思わせる。

神秘的で神神しい。

神々が住むといわれる熊野三山を背に

海を渡る風はやさしく柔らかなだ。

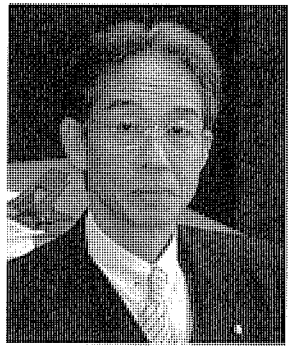
にまちまちである。国連の行事で掲げる場合、タテヨコを2
対3の比率に統一して掲揚するという。国旗に最も多く使わ
れる色は《赤》で、全体の8割に使われている。アメリカ星条
旗の赤は「色票70180番の赤」と指定してあるが、日本
の日の丸の赤は厳密な色指定がないらしい。幕末、日の丸を
正式採用する際に貢献のあった薩摩藩主が、鹿児島城から
桜島の初日を見て「この色じゃ」と叫んだのを起源としてい
るともいう。インドネシアとモナコの国旗は大きさが少し違
うが、どちらも赤白の2色で上が赤・下が白の同じデザイン
であり、赤白の上下を変えるとポーランドの国旗になる。オ
リンピックで入賞の時など、混乱が起きる可能性がある。カ
ナダは中央にカエデの葉を描いて粋なセンスが感じられる。

◆《宴会》の終わり、お手を拝借シンシャンシャンと三度叩
いてお開きにする。以前はよく万歳三唱をやったが、そのバン
ザイの起源には諸説があつて面白い。桓武天皇/平安京遷
都の際の奉祝歌から発生したという説、また雅楽の一つ《万
歳楽》からとする説、そして明治二十二年憲法発布の時、観
兵式で帝大生から自然にバンザイの唱和が起こったとする説
がある。何にしても天皇制に深く関係するようだが、今で
は広く庶民化され、新婚旅行の駅頭でやり、海外旅行や転
勤の饞(はなむけ)にも叫んでいる。目的意識がはっきりして
いる時、繁栄を祈る時、ケジメをつける時も《万歳》とやる。
折り目・節目、締め括りの意味合いにも相応しいのか国会解
散でもやっている。《新年万歳!》

新年のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長

丸一芳訓



新年、明けましておめでと〜うございます。
年頭にあたりまして、県下、漁協並びに組合員各位、又、系統団体各位の皆様方に、謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、本年益々のご繁栄を祈念する次第であります。

さて、初春をめぐる言葉は数々ある中、私はやはり「明けましておめでと〜う」と、皆様方と共に新年をお慶びしたいと存じます。と言いますのも明けましての「明け」は太陽と月から成る文字で、日と月は古代より、洋の東西を問わず、人々の信仰の対象であります。実理では、天を知り、地を見て、まずは初と終を創り、その中で春夏秋冬を明確にした、陰、陽、それぞれの歴ができ、人々は従つて種をまき、実を収穫し恵みを享受すること、昨日から今日、今日から明日へと歴史をつくりまわりました。その歴史の継承こそが目出たい事であり、子々孫々の繁栄が約束される「明けまして」の言葉を選び、お慶びとしました。

さて私備、昨年6月総会において、JF兵庫漁連会長就任以来、県下約1万人の漁民と、62組合の精託に託されるべく、機構改革、審議会、委員会の構築等「現場第一主義」をモットーとし全力を尽くすべく職務に当たっております。

各系統、組織もまた、漁連を頂点として、三団体共通役割制の充実と、業界内の課題や認識の共通化を図りつつ、会員の利便性の向上に努めるとしてあります。とは言え、近年県下の漁業は、内海では資源の減少、魚価安、さらに

主幹産業である海苔も色落ち現象、また、WTO・FTAさらにはI・Qと緊迫した様相を呈しており、日本海もズワイガニの資源管理の効果がみられるなど明るい話題もあれば、いよいよ「安価で悩み」、内海と同様「流通の再建」が急がれるところであり、かつ日韓問題が依然として未解決のまま、横たわつておるのが現状であります。関係者各位の御尽力に頭の下がる思いであります。さらには、我等共通の第二課題ともいえる後継者問題が前途に控え、何故にして今日から明日への引継を途絶えることなくしていくか明かなき問題であり、将に業界暗雲がたちこめることと存じます。が、いかにしても、漁業の歴史伝統は守り抜き、継承していかねばなりません。自給率50%以下の独立国家などあり得ません。国の基を考えると、我等、第一産業者の軽視はゆるされないと同様、我等もまた自らが国民の負託にこたへるべく切磋琢磨しなければなりません。特に幹部といわれる立場にある方々には、身を呈してもこの難局に立ち向かい、明日の漁業の構築に尽力を賜り「止む時は死する時」との心構えが肝要と存じます。

春にはイカナゴ、夏には鱧、秋には鱈、冬にはカニ、海苔、と申しますが、それは単なるカレンダーであり、現実には横たわる「我等の歴」の舵取りは、生易しいものではない事を実感しております。

最後になりましたが、今年こそ、昨年以上に浜の皆さんが更なる大同団結のもと、英知を結集し兵庫漁民の意気地を遍く万民に知らしめる年でありますよう祈念申し上げ新年の挨拶と致します。



兵庫県知事

井戸敏三

安全安心、元氣な未来を

新年あけましておめでと〜うございます。
新しい世紀の幕開けから5年目の初春、今年、阪神・淡路大震災から10年の節目を迎えます。今こそ、震災から力強く復興してきた兵庫の力を県内外に発揮しつつ、成熟の時代を切り拓いていく決意です。
まず第一に、安全安心対策を充実していかなければなりません。

震災や風水害の経験と教訓を踏まえ、人々の生活の基盤である安全・安心の確保に万全を期し、治山治水の計画的推進や、自助・共助・公助による総合的な住宅再建共済制度の実現等を図ります。食の安全や健康対策も欠かせません。

第二に、「ひょうごの元氣」の創出です。
地域教育の充実等による「人の元氣」、経済・雇用の再生等による「地域の元氣」、コミュニティ対策の展開等による「社会の元氣」という三つの元氣で、「元氣なひょうご」づくりを進めます。

第三に、分権改革の推進です。
三位一体の改革の進展により、自己責任・自己決定に基づく、自由度の高い地方行政が実現に向かいつつある流れを確かなものとし、分権社会を実現していかなければなりません。日本の将来がかかっています。

元氣と安心のうえに、参画と協働で、個性と多様性に満ちたふるさと兵庫の豊かな未来をめぐります。

故郷の 明るさめざす 願ひこそ
豊かな未来 つくる基こそ



兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長
吉野 生 壯

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。平成17年の年頭にあたり、会員ならびに組合員の皆様にご挨拶申し上げます。

昨年は、海苔養殖については年明け早々より色落ち現象が長期広域に拡散し、また2月には重油流出事故発生による大幅な減産、漁船漁業においては、瀬戸内海海域における船びき網漁業では例年になく不漁に見舞われました。但馬海域でも異常気象等による漁業への影響が少なからず見受けられましたが、ズワイガニ漁が好調とのニュースは明るい話題であります。

また、3度に及ぶ台風襲来により漁業関連施設、組合員の生活面にも甚大な被害を受けた年もありました。

このような状況の中、会員および組合員に対し、水揚不振に対応する漁業近代化資金等の償還期限延長措置、災害対策としては災害資金の設置等、系統金融としての積極的な金融姿勢で復旧支援に取り組み、ご期待にこたえるべく努力いたしました。

本会の経営状況におきましては、皆様の協力のもと、当面の目標としてまいりました自己資本比率10%を15年度末で達成することができました。今後も引続き「経営改善計画」にもとづきまして、一段の財務の健全性を確保を図ってまいります。

組織の再編強化を通じた経営体制の確立につきましては、JFマリンバンク基本方針のもと「1県1信用事業責任体制」による系統一丸となった信頼体制の整備を行い平成17年12月末を目標として同体制構築をめざしてまいります。

また、本年4月に完全実施されます「ペイオフ解禁」に向けては、貯金者保護のためのセーフティネットの充実と本会の財務健全性が高い水準にあることを積極的に開示し、安心してご取引していただけるよう万全を期して「安全」な金融機関として浜の信頼を勝ち得るために取り組んでまいります。

加えて、同時期に施行されます「個人情報保護法」への対応につきましても、本会利用者の個人情報はお預りした大切な財産であるとの意識を再確認し、厳重なる管理をお約束いたします。

今後の本会の経営見通しは、これまで以上に厳しい局面が予測されますが、漁業系統金融機関としての機能をフルに発揮し、事業量拡大に向けた積極的な営業推進を実施するとともに、役員一丸となつて、「浜を支える金融機関」として、次の4つの理念のもとに「笑顔と真心」「浜のニーズ」「協同と協働」「安心と有利」に応えるために努力いたしますので、信漁連のご愛顧をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業の更なる発展と皆様方のご健康ご多幸を心よりご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



兵庫県漁業共済組合
組合長理事
吉岡 修 一

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。平成17年の年頭にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

さて、最近の漁業を取り巻く環境は経済の低迷状況が継続する中で、昨年を顧みましても、大阪湾・播磨灘の全域に亘つてノリの色落ちの発生やイカナゴ・イワシシラスの回遊不振、但馬地区におけるカレイ類の漁獲不振、また、台風の襲来による漁業被害の発生など、大規模な災害が頻発して漁業経営を圧迫する状況にあり、各浜でこれらの災害等から全く無縁な漁業・養殖業はないとの実感を強めております。

このため、漁業者、漁協系統の皆様方から「ぎよさい」に対する期待と関心は益々高まっております。昨年11月からのノリ漁期において、特定ノリ養殖共済の新規7漁協の加入が実現いたしております。しかしながら、県下の状況から見ますと加入状況は未だ十分なものとは言えず、「ぎよさい」の役割をより一層果たすためには、これまでも増して制度の普及に組織を挙げて取り組んで行かなければならないと痛感しております。

「ぎよさい」は急速に変化する漁業情勢や漁業者の新たなニーズに 대응べく制度改正が実施され、漁業者にとつて加入しやすい制度となったことから、昨年は加入拡大に大きな成果をあげることができました。本年も引続き新制度の普及定着を図り、「守るぞ経営ぎよさい新時代」というスローガンを掲げて展開している「新ぎよさい総加入運動21」全国運動の最終年である4年目の加入計画を達成するとともに、運動の目標であります「全ての漁業者のぎよさい加入」を目指し、加入推進運動を強力に展開して参りたいと決意を新たにしているところであります。

国、地方公共団体、漁協系統団体等との密接

な連携のもと、本年も漁業者の皆様と相携えて新時代の漁業と漁村づくりのために「ぎよさい」がますます浜の期待に応えられますよう、役員一丸となつて力強く前進したいと存じますので、引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業の更なる発展と皆様方のご健康ご多幸を心よりご祈念申し上げます。



兵庫県農林水産部
農林水産局水産課長
楠本 正 博

新しい年を迎えて

あけましておめでとうございます。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた1年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

願いますと、昨年は新潟県中越地震が発生したり、過去最高となる10個の台風が日本列島を通過し、大きな爪痕を残しました。

特に台風23号は、県内各地に大きな被害をもたらしましたが、漁業団体ではいち早く豊岡市と洲本市の浸水被災地で炊き出しを行い、復旧作業のボランティアにも参加頂くとともに、義援金についても多大な協力を頂きました。

漁業操業面では、2月末の大阪湾での流出油事故、3月からのイカナゴ、その後のシラスの不漁、

また日本海でも2年続きの越前クラゲの出現や、9月以降のハタハタ、カレイの不漁など厳しい状況が続きました。

特にノリ養殖においては、これまでにない広範囲かつ長期的な色落ち現象が起こり、枚数・金額ともに平年の3割減の「大凶作」となりました。

その一方で、中国産ノリ輸入解禁問題や、韓国による日本のI・Q制度のWTO違反提訴問題等、国際貿易をめぐる動きも活発化しており、今後、本県ノリ養殖業への大きな影響が懸念されます。

県としても、県漁連と連携して、色落ち被害防止対策に努め、大型協業化などの更なるコスト削減に向けた生産構造の再編を検討するとともに、国に対してI・Q枠堅持等の要望を行っていくこととしています。

併せて、なかなか進展しない日韓漁業対策における暫定水域内の漁業秩序の確立について、引き続き国に対して働きかけていきたいと考えております。

さて、漁協合併については、新年1月1日付けで東明石浦漁協と明石浦漁協が合併しました。東播地域では35年ぶりの合併となりましたが、これを契機に当地域でのさらなる広がりを期待してまいります。

一方、但馬五漁協については、合併推進協議会が設置され、平成19年春の合併を目指して具体的な協議を進めています。漁協が漁業・漁村の中核組織として漁業者や地域を支えていくためには、合併などの経営基盤強化が不可欠であると認識していますので、県もこれらの取り組みを積極的に支援していきたいと考えております。

いずれにしても、漁業は自然産業です。自然の恩恵に感謝しながら、今年も海の幸に恵まれますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



兵庫県農林水産部
農林水産局漁港課長
澄田 泰造

災い転じて福に

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはご多難お構いなく、新しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

顧みますと、昨年は災害の対応に追われる1年でありました。2月末に京都府で発生した「高橋原性鳥インフルエンザ」が本県にも飛び火し、緊急対策を迫られたことを皮切りに、6月の台風6号から10月の台風23号まで、観測史上最多を記録する10個もの台風の上陸に遭い、とりわけ10月20日の台風23号は、但馬や北播磨、淡路を中心に甚大な被害をもたらしました。そして、10月23日には震度6強を記録する新潟県中越地震が発生し、あの阪神淡路大震災を想い起さずにはいられない悲惨な状況が報道されました。この他にも全国のいたるところで地震が頻発するなど、まさに「災害列島」という有難くない形容がぴったり当てはまる1年でした。危惧すべきは、この1年の災害、とくに台風襲来時の異常な高潮が昨年だけの出来事では終わらずに、今後定常化するのではないかということです。また、東南海・南海地震は今世紀前半にも起こる可能性が非常に高いという予測がなされており、津波に備えることも重要な課題です。

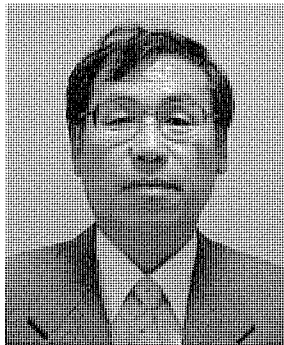
今後の漁港漁村整備にあたっては、つくり育てる漁業と連携した水産基盤の整備を進めていくこ

とは言うまでもありませんが、昨年の台風被害を

教訓に、自然災害に対する県民の不安を払拭できるよう、災害に強い漁港漁村づくりを推進していくかねばならないと考えております。具体的には、高潮や津波に備え、潮位などの設計条件を見直し、既存防潮堤の耐震・老朽度調査等を実施したうえで、護岸等の整備・補修・改良を行うなどのハード整備を行うことと併せ、県や市町の防災担当部局と連携しながら防災情報の伝達や住民避難誘導などのシステムが有効に働くようソフト対策の充実をも図りたいと考えております。

昨年末に、日本漢字能力検定協会が平成16年の世相を象徴する漢字を「災」と発表しましたが、災害から得た教訓を生かすことよって「災い転じて福となす」よう万全の備えを講じていきたいと思っております。「禍福はあざなえる縄の如し」の諺にあるよう、この新たな「年が「福」多き年となることを願ってやみません。

今後とも、会員の皆様方にはこれまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。



兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長
八橋 忠良

を申し上げます。

不況による魚価安、漁場環境の変化、自然災害の多発など水産業や漁村を取り巻く状況は不安定さを増しております。このような中、兵庫県水産技術センターは地域に密着した技術開発、漁場環境・水産資源の把握とそれらの普及を通じて水産業を振興し県民に貢献します。

平成16年は、内海においては珪藻赤潮被害防止対策事業による珪藻赤潮の発生予察を行うための、短期予測システムの開発が終了し、運用の運びとなりました。但馬ではゆではたるいか目玉除去機の実用化や展示施設の更新などのほかに日本海では初めてとなるソデイカ卵塊発見といったこともありました。また、内水面では、コイヘルペスウイルスの発生が世間を騒がせたこともまだ記憶に新しいところですよ。

平成17年は、内海においては老朽化した調査船ひょうごに代わって新しく漁業・環境調査船「新ひょうご」がいよいよ運航を開始します。また、漁場環境情報管理システムを構築し、ホームページ上に内海6カ所の連続的な水温や、漁海況情報、各種調査結果等の情報を提供して参ります。但馬においては日本海の六府県合同で、放流ヒラメの調査を開始します。内水面では、引き続きアユの冷水病対策や新しい養殖魚種の開発を進めてまいります。

このように、水産技術センターは試験研究を進める一方で、来訪される県民の方が五千人を越える、開かれた施設でもあります。多くの人に海や漁業のことを知っていただくことが、水産業振興の大きな力になると考えています。お近くへこれらの際は、ぜひ一度お立ち寄り下さい。何か新しい発見があると思います。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

平成十七年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝い



全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
植村正治

年頭のご挨拶

皆様、おはようございます。明けましておめでとうございます。厳しい漁業情勢が続く中、皆様のおかげでは、経営の維持・改善のために懸命のご努力をなさっております。こと存じます。

省みますと、昨年、我が国は多数の大きな災害に見舞われました。史上最多の上陸数となった台風や低気圧等が全国で猛威をふるい、漁業関連施設にも多大な被害を及ぼしました。被害にあわれた皆様には改めてお見舞い申し上げますとともに、再生産のための「苦労」をご推察いたします。

永年にわたる漁獲量の減少と、世界の水産物貿易額の4分の1にもなる輸入水産物により、魚価の価格破壊を招いております。WTO・FTAのめざす貿易の自由化から、有限天然資源産業を通して、世界に冠たる魚食文化を築いてきたわが国の漁業者と歴史と伝統のある漁村を守り、21世紀の国民食料確保のため総力を結集しなければなりません。

ノリのIQにつきましては、これまで韓国産のみに輸入が認められていましたが、政府は来年から中国産ノリの参入が可能となるノリIQ枠のゼロ・バル化の方針を打ち出しました。しかし、新たに韓国がWTOに提訴、2国間協議を求めると予断を許さない状況となっております。私どもは、IQ制度の堅持を今後とも国に要請してまいります。

昨年は異常な石油の高騰により、苦しい漁業経営にさらに追い討ちをかける結果になりました。このような中、政府に対応を要請しつつ、漁業用燃油の安定供給に特段の努力を傾けてきたところであります。

このような環境下で、JFグループの経営もまた、厳しいものになっております。より健全な経営を行うためには、二〇二〇年に行われました漁協代表者集会において採択されたアクションプログラム、即ち1県1JFや自立JFをめざす合併や1県1信用事業体制、県連・全国連の組織改革、各事業の見直しとコストの削減等々は避けて通れません。このためには、浜の金融確立のための基金協会との連携、JF合併の足かせとなっている旧債の解消など、二〇二〇年度の漁協合併促進法の期限を念頭に置き、目標を達成するための運動をよりいっそう強固に進めなければなりません。そして、これらを点検し、JFグループの新たな運動方針を定めてゆくため、本年の秋には漁協大会またはそれにかわる大会を開催する予定にしております。

昨年発表されました第11次漁業センサスにより、漁業就業業者数は23万9千人と5年前よりさらに減少しております。また、政府は、水産物自給率を65パーセントまで引き上げる計画を打ち出しましたが、現在のところ効果が表れているとは言えない状況です。

こういった厳しい状況の中にあつて明るい話題があります。自民党が水産部会の復活を決めたこと。1月18日の自民党大会で正式決定となりますが、数年前に省庁再編が実施され、水産部会は独立していたものが農林水産部会に併合されました。それが昨年、自民党の若手議員の先生方が、厳しい浜の実状打開の為、党中央本部に申し入れ実現となりました。

水産部会が再び独立して復活することは、自民党が水産に本気になってくれることの大きな証左

でありました。新年早々おめでたい話題だと皆様とともに喜びをする次第です。

魚食文化は、私たち日本人の健康と長寿をささえ、世界中から注目されております。漁業は国民食料を支える重要な産業です。加えて漁業漁村は環境保全、人命救助、国境監視等々の多面的機能の役割を果たしています。基本は漁村(ハマ)です。漁村は日本人の心のふる里と言えましょう。

世の中の景気は回復基調にあると言われております。今年こそは景気が好調に推移し、水産業界も明るい話題が出てくることを祈念して、年頭の挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
佐々木 護

目標達成に向け 総力結集を

輝かしい平成17年の初書を迎え、全国津々浦々、浜の皆様は新年のお慶びを申し上げます。先ず始めに昨年発生いたしました台風や大雨、新潟県中越地震といった自然災害により被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに「一日も早い復旧をお祈りいたします。」

さて、わが国経済は世界経済が回復するなかで、景気が上向くものと期待されているものの、為替レートなどの動向には留意する必要があります。また、民間保険業界にあつては依然として続く超低金利情勢や契約実績の低迷のもと合

併・業務提携等が急速に進展し、激しい競争が展開されております。

また、JF共済の事業基盤であり、漁業漁村においては、漁業生産量の減少、魚価の低迷等に加えて、漁業就業者の減少と高齢化の進行にともない、漁業・漁協経営はさらに厳しき増大の今日であります。これに対処するため、JFグループは全国漁協代表者集会において決定した「JFグループの事業・組織・経営改革に向けた運動方針」にもとづき、「アクションプログラム」を策定し、合併の完遂と事業改革に取り組んでいくところであります。

このような事業環境のもと、JF共済（JF共水連）においては、事業量伸長の停滞、運用利回りの低下等、その事業運営は非常に厳しい状況にあります。このため、16年度は「RESTART（リスタート）―JF共済3か年計画」の最終年度として、次期3か年計画への足がかりとなる重要な年度であり、また、「漁協元受20周年」の節目にあたる意義深い年度でもあります。そこで「主役は浜である」との認識のもと、残る僅かな期間ではあります「JF共済元受20周年記念キャンペーン」を強力に展開し、所期の目標達成に向け、総力結集の歩みを続けて参りたく存じます。そして、17年度は新3か年計画をスタートし、JF共済を安心してご利用いただくため、さらに安定した資金運用やリスク管理の向上に向けた基盤整備を着実に進め、経営の健全性の確保と事業基盤の強化に邁進する所存であります。

どうか本年におきましても、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜われますよう、切にお願いを申し上げます。最後に、昨年度は、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

全国漁業協同組合学校施設整備 募金運動にご協力下さい

全国漁業協同組合学校施設整備募金運動要項が送付されておりますので、皆様の格別のご協力をお願い申し上げます。

新全国漁業協同組合学校構想実現に向けた施設整備募金運動要項

- 本募金運動は以下の3団体で協同し運動を推進する。
 - ①全国漁業協同組合学校後援会
 - ②財団法人 漁村教育会
 - ③全国漁業協同組合連合会
- 運動の名称
新全国漁業協同組合学校構想実現に向けた施設整備募金運動
- 運動の目標額
金 50,000,000 円
- 運動の呼びかけ範囲と募金の概要
個人募金 (JFグループ役員) 一口 1,000 円 (一口以上×1カ年)
団体募金 (以下の通り)
・全国漁業協同組合学校後援会会員以外の JF (5,000 円×0.5×2カ年)
・同校後援会会員団体 (後援会費×0.5×2カ年)
- 運動の期間
2004年12月1日～2007年3月31日
うち、
個人募金 ～2005年3月31日
団体募金 2005年12月1日～2006年3月31日 } 2カ年実施
2006年12月1日～2007年3月31日 }

2004年度から2006年度までの3カ年とします。初年度はJFグループ役員を対象とする個人募金運動を先行して実施し、2005年度以降2カ年に亘って、全国漁業協同組合学校後援会会員(漁連、信漁連及び会員となっているJF等)並びに会員以外のJFに対し、団体募金運動を実施します。
- 募金の取りまとめと送金先
①個人募金については、同封の寄付申込書に必要事項をご記入のうえ、各団体 (JF、JF漁連、JF信漁連等) 毎に取りまとめて下記口座に直接お払い込み願います。

②団体募金は、同封の寄付申込書とともに下記口座にお払い込み願います。

送金先 農林中央金庫 大手町営業部
口座番号：普通 9382530
口座名：財団法人 漁村教育会 組合学校新改埠構想募金口

- 募金の活用
この募金は、全国漁業協同組合学校改革構想に伴う改修費用として活用いたします。
- 募金に対する減免税措置について
この募金(寄附金)は、所得税法第78条第2項及び法人税法第37条4項の規定に該当しないため、特定公益増進法人に寄付された場合の減免税措置はありません。(法人の場合の指定寄付金や特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入並びに個人の場合の特定寄付金による寄付金控除はできません)
- 報告
この募金の結果報告については、毎年、全国漁業協同組合後援会通常総会において行います。
- 事務局
〒277-0854
千葉県柏市豊町1-4-5
(財)漁村教育会(全国漁業協同組合学校)
電話04-7144-8125
FAX 04-7145-5003

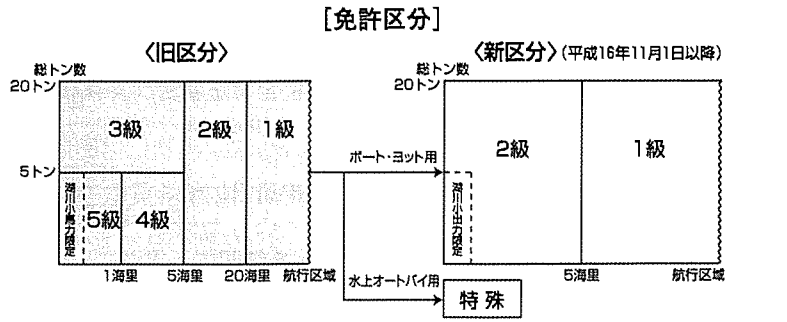
〒101-8503
東京都千代田区内神田1-1-12 コーポビル7階
全国漁業協同組合学校後援会事務局 (JF全漁連信用組織経営部内)
電話03-3294-9619
FAX 03-3294-9603

以上

免許制度が変わったのをご存じでしたか?

平成16年11月1日から免許制度をより簡素・合理化するため、これまで1級と2級の免許に設けられていた総トン数5トン未満の限定区分が廃止されました。

☆例：2級【旧2級5トン限定(以前の3級・4級)】の免許をお持ちの方は、5トンの制限が廃止されたため、20トン未満の船舶で沿岸から5海里までの海域を航行できます(大阪湾は、平水区域のため今までどおり2級免許ですべての海域が航行できます)。



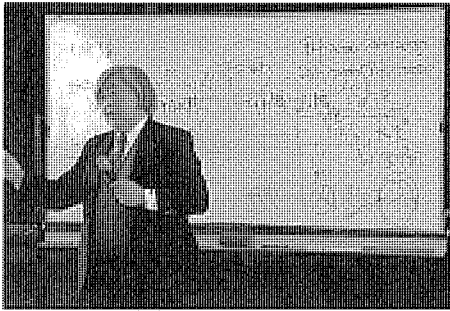
漁協簿記実務研修会

昨年12月1日に県立水産会館で「平成16年度漁協簿記実務研修会」が開催されました。

当日は県下JF並びに系統団体より約50名が参加し、「漁協簿記と決算書作成」「業務報告書の適正な作成について」の2テーマについて研修しました。

テーマ「漁協簿記と決算書作成」については、本会顧問税理士でもあります森田税理士より、簿記実務に携わる担当者として、単に日常の事務処理のみをするのではなく、日々の入力を行い財務諸表等作成した後、それを見て、組合の経営状況等意見を述べられるようにならなければいけないと講演がありました。引き続き、午後からは簿記実務に関する練習問題も行いました。

テーマ「業務報告書の適正な作成について」については県庁水産課の長島主査より、実際の業務報告書の様式を用い、細かくご指導いただきました。



兵庫JCC通信

今、JA・生協では



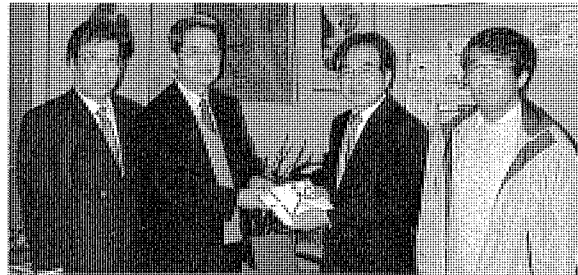
JA講座で人生幸福学を学ぶ

JAたじま(代表理事組合長・田口義修)では、管内の20~40代の若者に、社会・農業・生活などの最新情報や「JAたじま」のことを学びながら、仲間づくりをしてもらいたいと、6月から毎月1回、JA講座を開催している。4回目のJA講座では同JA総合営農センター(八鹿町朝倉)でアメニティ・ライフ・デザイン代表取締役・伊藤喜代次氏を招いて開催した。「誇りある人生と生活のために」~人生は、夢と希望とサム・マネー(いくらのお金)~と題し、人生を四季にたとえ、実りの秋のようによりハッピーにするための講話に、出席した20名の受講生らは、活発な質問を寄せていた。



熱心にメモをとる受講生

台風23号災害支援協力金を たじま医療生協、兵庫県社会福祉協議会に贈呈



10月20日に兵庫県を襲った台風23号は県連会員にも多大な被害を与えました。これを受け、兵庫県生協連で「台風23号災害支援協力金」を呼びかけましたところ、各方面からあたたかいご支援をいただき、12月20日までに2,450,114円が寄せられました。

12月20日(月)、豊岡市にある、たじま医療生協・ろっぽう診療所において、兵庫県生協連を代表して中川和彦副会長理事が、たじま医療生協・前田貞夫理事長に災害支援協力金のうち2,250,114円を贈呈しました。前田理事長は、「あらためて助け合いの精神、協同の心を実感しました。再建には時間がかかりますが、この間のご支援やご協力をもとに医療生協活動に取り組んでいきます。」と感謝の意を述べられました。

また、21日(火)には、兵庫県社会福祉協議会へボランティア活動支援金として20万円を贈呈しました。



行事予定 <変更になる場合があります>

JF兵庫漁連	
1月12日(水)	13:00~ 企画幹事会(中会議室)
17日(月)	第5回のり入礼会
18日(火)	14:00~ JFふれあい会議西浦地区(一宮町ふるさちセンター)
25日(火)	9:00~ JFふれあい会議 西播地区(姫路労働会館) 14:00~ JFふれあい会議東浦地区(しづのおたまき館)
27日(木)	10:30~ 定例理事会
29日(土)	第6回のり入礼会

JF兵庫信漁連	
1月11日(火)	香住加工恵比寿講(専務)
12日(水)~21日(金)	農林水産省大臣官房検査
21日(金)	農林水産省大臣官房検査講評理事会
31日(月)	JFマリンバンク支援協会理事会(東京・会長)

JF共水連兵庫	
1月12日(水)	10:00~ 特別委員会(コープビル)
17日(月)	15:00~ 東浦地区推進協議会研修会(JF東由良町)
20日(木)	13:00~ 近畿ブロック連絡協議会(新大阪)
21日(金)	9:00~ ブロック会議(新大阪)
25日(火)	14:00~ 摂津東播・但馬地区推進協議会合同研修会(貝子ピラ)
26日(水)	13:00~ 第2回推進専門委員会(中会議室)

基金協会	
1月18日(火)	15:00~ 保証保険事業意見交換会(コープビル)
31日(月)	13:30~ 保証審査委員会
2月	13:30~
17日(木)	山陽・四国ブロック事務担当者会議(神戸ウシントンH)

内海・但馬漁保	
1月27日(木)~28日(金)	漁船保険等審査実務研修会(東京)
2月7日(月)~8日(火)	料率改正説明会・漁船保険等引受事務研修会及び加入促進会議(東京)

但馬漁保	
1月13日(木)	13:30~ 造船・鉄鋼説明会(但馬水産技術センター)
25日(火)~26日(水)	全国漁船保険組合検討会(東京)

漁港協会	
1月	9:30~ 漁港漁協協会事務担当者会
20日(木)	(新神戸オリエンタルH)

ひょうご豊かな海づくり協会	
1月24日(月)~25日(火)	西日本種苗生産機関連絡協議会(鹿児島市)

振興基金	
1月31日(月)	14:00~ 理事会(中会議室)

兵庫県	
1月14日(金)	10:30~ 常任委員会
24日(月)	14:00~ 但馬海区漁調委(但馬漁業センター)
26日(水)	水産主務課長会議(農水省)

その他	
1月14日(金)	15:30~ 播磨漁友会臨時総会(Hオクウチ)
15日(土)	16:30~ 阪神・淡路大震災10周年総括フォーラム(神戸国際会議場)
17日(月)	11:45~ 阪神・淡路大震災10周年追悼式典(県公館)
2月3日(木)	第29回淡路のり品評会(淡路水産センター)

ポイントに知ってる? こっそり覚えよう! 兵庫のさかな



今月のさかな アカシタビラメ

標準和名：
アカシタビラメ、
カレイ目ウシノシタ科

今月ご紹介するのは、フランス料理のムニエルでおなじみの魚、シタビラメです。シタビラメには「アカシタビラメ」と「クロシタビラメ」の2種類がありますが、名前の通り、お腹がピンク色をしているものが「アカシタビラメ」であり、ウシノシタ科に属する魚の中で最もおいしいといわれ珍重されています。単にシタビラメという場合は、ほとんどがこのアカシタビラメを指します。

体は、動物の舌のように細長い長卵形で、この特徴から「舌平目」と呼ばれるようになりました。ウシノシタ科の魚に共通の特徴である極端に小さい目は、右目が左目に接近して上下に並んでいます。このように目が左右対称でない魚の代表といえはカレイとヒラメですが、俗に「左ヒラメに右カレイ」といわれます。アカシタビラメのお腹を下にしてみると頭が左側にくるため、名前に「ヒラメ」とつけられたのですが、実はアカシタビラメを含むウシノシタ科の魚は、ヒラメではなくカレイの仲間です。口は体の先端ではなく目の下にあり、下側に開きます。また、背びれ、尾びれ、尻びれがながついているなど、外見的特徴が非常に多い魚です。

南日本に多く、沿岸の水深50~120mの砂泥底に棲息しています。昼間は砂泥底に体をうずめてじっと潜んでいます。夜間になると海底をはうように泳ぎまわり、小型の甲殻類やゴカイなどの多毛類を食べます。視力が弱いのが弱点ですが、その代わり

に嗅覚がとても発達しています。産卵期の晩春から夏になると、河口のくく浅い砂浜にやってきて、浮遊性の卵を産みます。日本で漁獲されるものは、ほとんどが25~30cm程度の大きさですが、フランスやイギリスの沿岸では60cmクラスの大物が獲れるようです。

さて、このアカシタビラメは、地方によってさまざまな別名があります。一例をあげると、九州地方では「クツゾコ」、中国四国地方では「ゲタ」、佐渡では「ゾウリ」、東北地方では「セウタガレイ」などです。これらの地方名を見てみると、ほとんどがアカシタビラメの風変わりな姿から名づけられたことがお分かりいただけるでしょう。このように、魚形はとも奇妙なアカシタビラメですが、欧米では好んで食され、「魚の女王」とまで呼ばれています。透明感のある白身は、良質なたんぱく質を持ち、味が良く、脂肪が少なくあっさりしているため、和風にも洋風にも料理しやすい魚です。西洋料理では塩、こしょうをし、小麦粉をまぶしてバターで焼くムニエルをはじめ、ソテー、フライ、ワイン煮などに調理されます。日本料理では、鮮度のよいものは刺身でも楽しめますし、煮つけなどにもぴったりの素材です。小骨が少なく、骨離れがよいので、子どもからお年寄りまで安心して食べられるのも嬉しいですね。骨をとるのが面倒だから魚は苦手だという方は、是非この魚にチャレンジしてみてください。

編集後記

あけましておめでとうございます。
旧年中は拓水のご愛読ありがとうございました。
今年も皆様に愛される誌面作りに
努めて参りたいと思いますので、
どうぞよろしくお願いたします。



高級ノリを生み出す

組合員の情熱に迫る!

ウチの漁協!

No.21

JF 林崎

瀬戸内海、明石海峡に面した明石市にある林崎漁業協同組合は、明石海峡大橋にも近く、夏場には林崎海水浴場に多くの人が訪れ、にぎわいを見せます。林崎漁港の前からはるか小豆島を見通す



線上に連なる浅瀬の一部は「鹿の瀬」と呼ばれ、栄養豊富な魚の宝庫であることは、皆さんご存じの通りです。

さて、この豊かな海に恵まれた林崎漁業協同組合は、兵庫県一のノリ養殖地として知られています。昭和30年代半ばから始まったノリ養殖は、昭和40年代になると林崎の基幹漁業となり、今や兵庫一の生産量を誇るまでになりました。兵庫県産のノリは、主にコンビニエンスストアなどで使用される「ノリ」が多いのですが、林崎では、贈答用からコンビニ用まで、幅広い等級のノリが作られています。特に林崎の「特上ノリ」は非常に価値が高く、県下でも1、2の高値で取引されるまさに「ブランドノリ」なのです。

林崎のノリが高級品とされるのは、もちろんその味の良さや見た目の美しさにあるわけですが、忘れてならないのは、その高級ノリを作るために



行われている林崎漁協のさまざまな取り組みです。まず、林崎では少なくとも5~6名、多くて10名以上で協業経営体を作り、その経営体ごとにノリの生産を行う「集団漁業管理」を行って

います。兵庫県ではノリ生産者の多くがこの手法を取り入れていますが、約3人で経営体を形成している漁協が多い中、林崎漁協ではその約2倍の人数で1つの経営体を形成しています。少人数での管理は、1人がいろいろな分野の管理を担当しなければならないのに対して、大人数での管理は、1人が受け持つ管理分野が少ないため、より専門的な管理を行えることが強みです。このため1つ1つの仕事の質が高くなり、高品質のノリができていくというわけです。また、高額な費用が必要な設備投資の際にも大人数で出資することができ、経費面でのメリットも大きいのです。さらに、林崎漁協では、各経営体の代表が集まる「ノリ養殖会」という組織を作り、そこで養殖開始日や網あげの日など、ノリ養殖に関する基準等を決定し、管理を徹底しています。経営体によっては、糸状体の管理も自分たちで行うなど、種の選別から製品の選別に至るまで、年間を通してノリ養殖に携わる組合員も数多くいます。このような林崎漁協のノリに対する情熱こそ、ブランドを生み出す力と言えるかもしれません。



ノリ養殖の合間である春~夏にかけては、船曳き網漁でシラスを、底曳き網漁では主にタコを獲っています。船曳き網漁専門の組合員は、2月下旬~3月にかけてイカナゴ漁も行います。特に全国的にも有名なタコは、年間約200トンが水揚げされますが、エサが豊富なこと、そして速い潮流にもまれることから身がしまり、こちらもノリと並ぶ林崎の「ブランド品」といえます。

さて、林崎漁協は15歳~39歳の組合員が3割強と、平均年齢が非常に若い漁協です。これは、ノリ養殖の安定によって、若い人が魅力を感じる漁業が展開されている証拠といえますが、現在「中等級ノリ」が主流となってきているノリの市場は、それに引っ張られる形で高級ノリの値段が若干下がってきているという心配もあります。兵庫県が全国に誇る高級ノリを守り続けるためにも、日頃お世話になっている方へ感謝の気持ちを込めて、林崎漁協の情熱がたっぷり詰まった高級ノリを贈ってみたいかがでしょうか?

<漁協メモ>

林崎漁業協同組合
代表理事組合長 田沼 政男
組合設立日：昭和24年10月1日
組合員数：正組合員290名/准組合員11名/計301名
漁獲数量：920トン



拓 1 January

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会 (財)兵庫県水産振興基金

〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1

TEL 078-652-3444 FAX 078-671-6685
URL <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>